

特別講演Ⅱのご質問

歯科矯正用アンカースクリュー時代における外科的矯正治療の選択基準と 安定性および顎矯正手術遠隔参加の展望

質問者 ぷらす矯正歯科 菅原 泰典 先生

素晴らしいご講演、勉強になりました。臼歯の圧下に対して期待しておりましたが開咬の後戻りが大きくあり、衝撃を受けました。供覧していただいたアンカーはプレートタイプでしたがスクリューとの違いはあるのでしょうか？研究結果には出にくいと思いますが、臼歯の圧下だけではなく前歯の挺出も合わせて行っても後戻りは起こりやすいのでしょうか？後戻りに対する工夫をまたご講演して欲しいです。外科矯正の遠隔チェックは素晴らしいと思いました。まだまだモデルサージェリーなので今後も教えてください。ありがとうございました。

回答者 演者 西井 康 先生

ご質問大変ありがとうございます。

圧下の方法に関しましてアンカースクリューかプレーとかの違いはあまりございません。

統計とった症例もどちらも含まれております。

メカニクス上の違いは、スクリューは口蓋から圧下するタイプが多いですので、

上顎歯列幅径が小さくなる傾向があるため多少拡大気味にパラタルアーチをセットします。

また、圧下量が多い場合はアンカースクリューを選択する可能性が高いです。

前歯の挺出とのコンビネーションですが、実際の臨床においては

大臼歯の圧下症例でも前歯の顎間ゴムを使用してディテーリングを行います。

その際ご指摘の通りどの程度挺出が起きるのかは不明ですが1mm以内の挺出は生じていると存じます。

後戻りの工夫は永遠の課題ですね、こちらこそ良いアイデアがございましたらお教えてください。

遠隔参加に関しましては、今後臨床研究を進めてみたいと思っております。

良い結果が出ましたら、またご報告いたします。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。